

## 1. 悪い知らせ (: 1~6)

イスラエルに対する主の約束が改めて語られます。: 1~3a。このような主のご計画は、モーセが召された時から主が語っておられたことです。このご計画のために、モーセはエジプトに遣わされ、イスラエルの民を導き出し、シナイ山までやって来たのです。

しかし、主が加えたことがあります。: 3b~c。主が民のただ中に臨在していたら、民の罪のゆえに聖なる主は民を絶ち滅ぼすことになるから、主は民のただ中であっては上らないと言われます。

これを聞いた民は、「この悪い知らせを聞いて嘆き悲しんだ」とあります。そんなに悪い知らせなのでしょうか。主のことばの中で気になるのはやはり、主が民のただ中であっては上らないということです。民が願うのは、主が共にいてくださって、力強い御業を行ってくださり、約束の地へと導いてくださることです。自分たちの罪深さも自覚しているけれども、自分たちの罪を主が赦してくださって、共にいてくださることです。もし、主が共にいてくださらないなら、これから先のことが不安でしょう。

このように主の臨在はイスラエルの民にとって支えでした。間違っ、目に見える偶像に安心を求めてしまったのですが、民には主の支えが必要でした。私たち教会は、みことばによって主の臨在を教えられ、確信しています。そして、励まされ、平安を与えられます。それでも、私たちは様々な状況の中で不安になってしまふことがあります。ましてや、主の臨在を知らなかったり信じなかったりする人々はどんなに不安になるだろうと思います。目に見える様々なことに安心を求めているのでしょうか。そのような面でも私たちは確かな主の恵みを証しできるでしょう。

悪い知らせ聞いて嘆き悲しんだ民は、「一人も飾り物を身につける者はいなかった」とあります。それは、「今、飾り物を身から取り外しなさい。そうすれば、あなたがたのために何をすべきかを考えよう」と主が言われたのを受けて、民は飾り物を外したのです。民のこの行動には、悔い改めが表されています。

どうして飾り物を外すように命じられたのか、それは、金の飾り物が集められて、子牛の像が造られたからです。罪を犯すことにつながった物だったからです。ですから、取り外すようにと命じられたのであって、その命令に民が従ったことに、彼らが自分たちの犯した罪を悔い改めたことが表されています。

この態度は大事なことです。罪を示されたなら、悔い改めて、その罪から離れることです。罪を犯すことにつながった物は手放すことです。真実に悔い改めるなら、そのような態度になるのです。惜しんでいたり固執していたりしたら罪を繰り返すことになるでしょう。悔い改めて、捨てる、あるいは献げる、必要があるでしょう。

## 2. 会見の天幕 (: 7~11)

さて、その悪い知らせに対して、モーセが主に向かっていったことが、次に記されています。モーセが主に祈り、主のことばを伺うために、どうしていたかが 7 節から書かれています。モーセはいつも、自分のための天幕を、宿営の外の離れた所に張って、これを「会見の天幕」と呼んでいました。そこで、主のことばを聞き、主に祈り、主との会見を持っていたのです。

その会見の天幕でモーセが主との会見の時を持っていたことについて、「主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた」とあります。これはすばらしいことです。

主は「顔と顔を合わせて」モーセと語られました。神様は人の目に見えるお方ではありません。モーセが実際に神様を見ているわけではありません。「顔と顔を合わせて」とは比喻であり、主が直接的に、はっきりと、モーセにお語りになったということです。民数記の中にも次のような主のことばが記されています。「聞け、わたしのことばを。もし、あなたがたの間に預言者がいるなら、主であるわたしは、幻の中でその人にわたし自身を知らせ、夢の中でその人と語る。だがわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者。彼とは、わたしは口と口で語り、明らかに語って、謎では話さない。」(12: 6~8)

さらに、「顔と顔を合わせて」ということを説明して、「人が自分の友と語るように」とあります。神様に対して人は恐れ、ひれ伏し、しもべとして仕えるべきであって、対等な者として出ることはあり得ません。しかし、主は人が友と語るように、モーセと親しくお語りになるというのです。すばらしい特権です。でも、それはモーセがすばらしいからではなく、主がモーセを選び、その働きに立てたからです。そして、特別に彼に語られたのです。

このすばらしい特権は、実は私たちにも与えられています。イエス様は弟子たちに言われました。「わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです」(ヨハネ 15: 15)。キリストは弟子たちを友と呼びました。イエス・キリストを信じる私たちのことも主は友と呼んでくださいます。使徒たちが書いたみことばによって、私たちにもお語りくださいます。聖霊なる神様が助けてくださって、みことばを悟らせてくださいます。

ですから、私たちはこの特権を十分に味わい、生かすべきでしょう。私たちも自分のための「会見の天幕」

を持つことができます。日々、宿営から離れ、会見の天幕に入り、主との交わりを持つことができます。一人になり、みことばを聞き、祈る時、デボーションの時を持ちましょう。「だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのを常としていた」(：7)とあるように、私たちがデボーションにおいて、主の導きを求めて、みこころを知らせていただくことができます。それぞれが自分のための会見の天幕を持って、みことばと祈りによって主と交わり、主の語りかけを聞くことをお勧めします。

### 3. モーセの祈りと主の答え (：12～23)

さて、モーセは主から悪い知らせを聞いたときにも、自分のための会見の天幕に入ったのでしょうか。その時の祈りとそれに対する主の答えが12節以降に記されています。

：12～13。この祈りのことばの中に同じようなことばが繰り返し出て来ます。そのことはヘブル語で見るともっと明らかで、同じ動詞が繰り返されていて、対称となって表現されています。その中で注目を引くのは、「だれを私と一緒に遣わすかを知らせてくださいませんか」と「どうかあなたの道を(知らせてください)教えてください」の部分だと思います。悪い知らせの中で、主が一人の使いを遣わして、約束の地へ導くと言われたのですが、その使いについて知らされていない、いや、使いよりもあなたの道を知らせてください、と求めています。そして、言外に込められた本当の願いは、神様ご自身が共に行ってくださいということなのです。

そのモーセの祈りに主は応えてくださいました。：14。この主の答えから、モーセが主の臨在を求めて祈ったということが分かりますし、主がその祈りに応えてくださったことが分かります。

それでも、モーセは満足していません。：15～16。14節では主はモーセに「あなたを休ませる」と言われましたが、モーセは主に「あなたの民」と共にご臨在くださいと求めたのです。彼は自分のために祈っているのではなく、民のために祈っています。

その祈りにも主は応えてくださいました。：17。ここで、先ほどと同じことばが出て来ます。「あなたはわたしの心にかない、あなたを名指して選び出したのだから」。これは12節で「あなたご自身が、『わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心にかなっている』と言われました」とモーセが祈ったことに対応しています。つまり、モーセは主のことばに基づいて祈り、主もそのことばに基づいて答えてくださったのです。

こうして、主はイスラエルのただ中であっては上らないと言われたのですが、モーセの祈りに応えて、イスラエルに臨在してくださると言われたのです。

それで十分ではないかと思うのですが、モーセはさらに祈ります。：18。この祈りの意味も主の答えから分かります。：19～23。主がなさることは常に良きものです。主はみこころのままに恵みを与えてくださいます。しかし、人は主の顔を見ることはできません。主の栄光が通り過ぎるときには、主がおおってください、人は主のうしろを見ることができます。

主は「わたしの臨在」がイスラエルと共に行くのを約束されました。「わたしの臨在」ということばは14節の欄外にあるように直訳すると「わたしの顔」です。モーセはその主の臨在を直接的に見せてください、主の栄光を見せてくださいと求めたのです。しかし、主は、イスラエルに臨在し、あらゆる良きものを与え、恵みを与えてくださいますが、「わたしの顔」、主の栄光を人は直接的には見ることはできないと言われたのです。ただし、直接的に見ることはできないけれども、通り過ぎた後、主のうしろを見ることができると言われます。つまり、後から、主の御業であったと分かるということです。

このようにモーセが食い下がって祈った祈りとそれに対する主の答えから、私たちは、主の約束、主のみことばに基づいて祈ることを教えられます。みことばの通りではないと思えるような現状の中でも、みことばの約束に基づいて祈るべきです。主はみこころのままに恵みを与えてくださり、常に良きものを与えてくださいます。その神様の御業を私たちは直接的には見ることはできませんが、後から主の御業であったと知ることができます。直接的ではないけれども主の栄光が表されます。そうして、主に感謝し、主を賛美することができます。

私たちは主の臨在を求めているのでしょうか。確信しているのでしょうか。目には見えませんが、みことばで教えられているように、主は私たち主の民と共に臨在して下さっています。主の臨在を妨げるような罪があるなら悔い改めて、罪につながるものを捨てましょう。

また、私たちが会見の天幕を持ちましょう。日々、みことばと祈りによって主との交わりを持ち、主の語りかけを聞きましょう。主は私たちが友と呼んでくださいます。みこころを悟らせてくださいます。

そして、私たちが主のみことば、主の約束に基づいて祈りましょう。主は常に良きものを与え、みこころのままに恵みを与えてくださることを経験することができます。主の御業であったと知ることができます。祈っているからこそ知ることができるのです。祈りの生活を続けていきましょう。